



百聞は一見如かず。よく言われる言葉ですが、図鑑を見ていると本当にそれを実感します。本当は実物をじっくり観察できればいいですが、そんなわけにはいかないことも多くあります。最近の図鑑は本当に美しく、デザインも洗練されていて、とても子どもだけのものしておくのはもったいなさすぎます。文字だけの本は、読むのに想像する力を必要としますが、図鑑はそのものが掲載されているため、そのままを楽しむことができます。本当にいろいろなジャンルの図鑑が世の中に出ていますから、まずは自分が興味を引かれる分野から、気軽に手に取ってみてはどうでしょうか。

知識は図鑑から

地歴公民科 湯田良英

私の小学校時代を振り返ると、学校から家に帰り、玄関にランドセルを投げ捨てて、湯浅町内の山や川や海に友人と出かけ、昆虫や魚などの生き物を捕まえて家に持って帰り、家にあった図鑑で名前や特徴を調べてから飼育することに夢中であった。特に昆虫の美しさに魅了され、夏休みの宿題の自由研究は毎年昆虫採集（友人からは昆虫採集の湯田と呼ばれていた）であった。昆虫を家の中に放し飼いにしたこともあり、親によく叱られた。

そのためか、親に買ってもらった本の中で、小説などは新しいままで、図鑑だけがボロボロになり、セロテープで貼り直すぐらい使い古した。じっくりと机に座って小説などを読んだ記憶があまりなく、図鑑や図説などの本を常に片手に持って、野山を駆け巡っていたように記憶している。中学・高校時代も岩石や宇宙などの図鑑に興味があり、近くの山にアンモナイトの化石（湯浅町は化石の宝庫）や鉱石を採りに行ったりした。



数年前から図鑑本や図解本がブームとなり、書店に行くと、あらゆるジャンルの図鑑が平積みになっている。学習図鑑ブームの火付け役となったのが、平成21年刊行の子供向けの『くらべる図鑑』（小学館）だ、建物の高さや乗り物の速さやなどあらゆるものを比較

してみせた同本は70万部の大ヒットとなった。当時、小学生の息子へのクリスマスプレゼントのつもりで購入したが、息子は一度もその図鑑を手取ることはなく、祖父に買ってもらったDSゲームに熱中していたため、しかたなく自分が読んだ。それまでの図鑑は「昆

開いたととににんぞ語おとににに『VIA』の図鑑『湯田良英』

虫」「草花」「魚」「動物」などジャンル別に取り上げるのが主流であったが、ユニークな切り口の編集方法で、小学生に戻ったつもりになり、懐かしさを覚えた。この図鑑をきっかけに、新しいタイプの図鑑が次々と出版され、それまで図鑑をだしていなかった出版社も参入するなど活況が続いている。



学習図鑑だけではなく、写真集のような大人向けの図鑑も出版され、平成22年刊行の『世界で一番美しい元素図鑑』（創元社）も人気を集め、25万部のベストセラーとなった。根源の118の元素をオー

ルカラーの美しい写真を豊富に使って紹介しており、日常生活で見かける製品に意外な元素が使われているなど、科学的な知見に基づいたユーモアにあふれる解説も楽しい。「科学エッセー」「美しい写真集」「最新の元素データ集」という3つの顔をあわせもち、巻末の美しい元素周期表も必見。

最近では、世界史や社会科学の分野の図解本も数多く平積みされており、平成27年度には『哲学用語図鑑』（プレジデント社）が10万部のベストセラーとなった。この図鑑は、哲学を「視覚化」し、かわいらしいキャラクターたちが、古代から現代までの主要な哲学者たちとそれぞれの哲学論をわかりやすく解説している。哲学の難しい概念や込み入った歴史の勉強も、ビジュアルにするとたちまち「おもしろい」「楽しい」「かわいい」という体験にかわっていく。先の見えない世の中、哲学は21世紀を生き抜くための必修科目である。



昨今、インターネットが急速に普及し、本離れが急速に進んでいる。本離れを防ぐためには図鑑を読むことをすすめたい。なぜ図鑑なのか？図鑑はどのページで始まって終わってもよい、暇さえあれば開ける便利な本である。さらに、調べるときに、関連する記事も目に入り、興味が広がる。たとえば図鑑でカブトムシを調べるついでに、ほかのページに目をうつしていくと、バッタやセミも目について読みたくなる。そうしているうちに昆虫全般に詳しくなっていく。入り口はカブトムシでも出口は昆虫全般になることはよくある。

授業の中で教科書に出てきた知識をより深めるのが図鑑であり、反対に、図鑑を読んでいるからこそ授業が興味深く聞けるということもある。「あ、なるほど」が多くなることで授業が面白くなる。

本を読まない諸君へ、図鑑を読むことから始めたらどうだろう。